



兵庫楽農生活センター

都市・農村交流拠点

県が主導する多彩な農を楽しむ複合施設

兵庫楽農生活センター（兵庫県神戸市西区）

■ プロジェクト実現のプロセス

兵庫楽農生活センターは、神戸市の中心市街地から北西へ約20km、酒米「山田錦」の産地として知られる三木市に隣接して位置する。昭和38年、県立農業試験分場等が開設され、その後農業大学校とともに加西市に移転した。その跡地を利用して平成18年11月にセンターが開設された。

センターは、気軽に「農」の大切さを学び、農作業などの体験や実践ができる施設として兵庫県が整備、県が進める「楽農」の推進拠点として「楽農生活センター」と命名された。団塊の世代や、新たに就農を目指す人の農業実践研修の場であり、人々が気軽に農作業体験や農産物加工体験、食体験などを通じて、「農」と食について考える場でもある。

■ 取り組み

センターが行っている事業は事業実

施者によって大きく二つに分けられる。一つは、センターの指定管理者である社団法人兵庫みどり公社が行う楽農学校・楽農交流事業等である。

もう一つは、事業参加者によるレストラン事業、農産物直売、食材加工事業、栽培体験、農機具の展示事業、障害者のための稲作栽培体験事業などである。場の提供や人材育成は公社が、営業ノウハウ等を必要とするレストランや直売事業は企業やJAが行うという役割分担が明確になっている。

楽農学校・楽農交流事業等

学校事業には、就農コース、生きがい農業コース、アグリビジネスコース、新規就農駅前講座がある。就農コースは、総合的な農業知識・技術を習得する実践的内容。研修期間は1年または2年。今までに30人の卒業生のうち23人が就農。基礎的知識と技術の研修を行う生きがい農業コースは、研修期間6カ月で土日の実施。半期38人の募集に対し毎年多くの応募が

ある人気コース。アグリビジネスコースは、希望する農業者に対し加工・直売などの経営基礎知識等の研修を実施。また、新規就農駅前講座は、サラリーマン等を対象に農業の基礎講座を夜間や休日に実施して、中高年層の新規就農を支援。神戸や明石市で4期26回、定員各25人を大幅に上回る参加者で行っている。親子農業体験教室は、家族で田植えから稲刈りまで一連の農作業を実施する体験教室で、毎年100組を募集している。

そのほか、都市と農村の交流を促進するため、イベント情報をホームページ「緑の休暇」で提供するとともに、農林漁業体験や都市と農村の交流を促進する活動にバスを利用する場合、その借上げ料の一部を助成している。

農村ボランティアとその活動の受け入れを希望する「ふるさとむら」とのマッチングを行っており、ボランティア登録者は2100人あまり、「ふるさとむら」は県下に40カ所となっている。



農産物直売所の楽農市場「きらめき神出」店内



就農コースによる研修風景

楽農レストラン育みの里「かんでかんで」

関西方面を拠点にする総合食品会社の株式会社トーホーがCSR事業（企業の社会的責任活動）の一環として事業参加し、運営する野菜料理中心のランチビュッフェだ。食材はセンター内のほ場やきのご館で収穫した新鮮野菜、地元産の旬の野菜等。90分間食べ放題のバイキング形式で営業しているが、大人一人1500円という低価格もあり、女性客を中心に人気がある。店内112席は平日でも予約客も含めほぼ満席だ。

農産物直売所 楽農市場「きらめき神出」

地元神出町で採れた野菜、センター内で生産した農産物、きのご館で生産したシイタケなどのキノコ類、加工施設棟で製造した加工食品等をJA兵庫六甲の地元実践グループ（直売部会）が直接販売している。直売所は楽農レストランの客でにぎわっている。

農産物加工所「くちーなかんで」

地元産の食材を加工して豆腐、惣菜、ジャム、パンなどをJA兵庫六甲の地元実践グループ（加工部会）が製造している。また、土、日曜日を中心に調理実習室で地元食材を使って加工体験講習を開催しており、昨年は2600人以上が参加している。

果樹園

老ノ口受託グループが1.3haの果樹園でブドウ、クリ、ウメの剪定、摘果、収穫などの栽培体験ができるように手入れをしている。果樹はセンター開園の平成18年に植え付けされたので、体験講習は今年から実施している。果樹園の一部は車椅子でも利用

できるようにインターロッキング舗装されたユニバーサルデザイン。

どろんこ水田

古神里づくり協議会が障害者施設の入居者を対象に稲作栽培体験を実施している。

里山再生塾

株式会社トーホーが下草刈りや間伐作業、間伐材を利用した道具づくりなどを体験できる「里山再生塾」を雌岡山の裾野で開講している。また、同社は前述のレストラン運営のほか、空調設備を備えたきのご館でキノコの栽培見学や収穫体験も実施している。

その他

センターの木造施設は兵庫県産の木材を使用し、ヒートアイランド対策として駐車場はグラスパーキング仕様にしてある。また、生ゴミ処理機、コンポスト製造施設、なたねの搾油、BDF製造施設等をセンター内に配置して、地産地消や環境対策に力を入れている。

■ 地域とのかかわり、今後の展望と課題

ランチビュッフェのにぎわいは、地元産の野菜中心の料理を提供しているということもあるが、なによりも安くおいしい、そのうえヘルシーである

ということにあるのだろう。それは、このレストランを運営する株式会社トーホーがCSR推進の一環として参画していることが大きく影響している。公と民がうまく協力し、「環境・健康・食」に関心が高い時代背景ともうまくマッチしている。このランチビュッフェが口コミで評判を呼び、マグネット効果で直売所を潤し、そのほかの事業や関連施設の周知に役立っていることは間違いないだろう。

日帰りで「農と食楽しむ」ことができるセンターで、農に触れ、心豊かな暮らしを実現する人々が増えていけば、この周辺地域だけでなく、過疎地を抱える兵庫県中部から北部地域、さらには兵庫県周辺の地方都市や農山村の活性化につながるものと思われる。

センター長の金川喜八郎さんは、「今は暗中模索の状況。いろいろな地域の団体やグループからさまざまな事業の提案があるが、できるだけ受け入れるようにしている。方向性を定めず、県民目線を大事にして、これからも兵庫楽農生活センターの発展に向け取り組んでいきたい」と語っている。これがまさに課題であり、展望でもあるのだろう。

プロジェクト概要

名称：兵庫楽農生活センター
所在地：兵庫県神戸市西区神出町小束野30-17
開園：平成18年11月
規模：約14ha（果樹園1.3ha、水田等5.5ha 農地合計6.8ha）
事業費：13億1900万円
連絡先：TEL.078-965-2651

施設概要：交流館（加工施設棟、レストラン棟、管理研修棟）、農産物直売所、学校管理棟（図書室、研修室等）、きのご館、農機具展示庫、研修用ほ場（新規就農者研修ほ場、生きがい農業研修ほ場、親子農業体験ほ場、どろんこ水田、野菜栽培体験ほ場）、果樹園、里山（雌岡山の裾野）